

2025 年 2 月 3 日

朝日放送テレビ株式会社

『阪神淡路大震災30年特別番組 あの時から今へ ～私が撮った1.17～』  
第 13 回 ATP 上方番組大賞番組部門でグランプリ獲得！

関西の制作プロダクションが制作した番組や制作者を表彰する「第 13 回 ATP 上方番組大賞」の授賞式が 1 月 28 日に行われ、グループ会社である株式会社エー・ビー・シーリブラが制作し朝日放送テレビで放送した『阪神淡路大震災 30 年特別番組 あの時から今へ ～私が撮った 1.17～』が番組部門でグランプリを受賞しました。

同賞は、一般社団法人全日本テレビ番組製作社連盟（ATP）が、関西製作者のモチベーション向上を図り、若い製作者が夢と誇りを持てる場を提供することを目的に、関西会員社の投票で優れた作品を表彰しています。過去の受賞作はこちらをご参考ください。

<https://www.atp.or.jp/awards/kansai.php>

■審査講評

震災から 30 年、記憶と証言を丁寧に紡ぎ、被災スタッフの視点と佐野さんの誠実な眼差し、上野さんの温かみあるナレーションが重なり、震災の恐怖や混乱を確かに伝えながら、後世に受け継ぐ価値を示した作品です。



『阪神淡路大震災 30 年特別番組 あの時から今へ ～私が撮った 1.17～』

番組概要：

2025 年 1 月 17 日(金)、阪神淡路大震災は 30 年の節目を迎えます。朝日放送テレビには被災直後の様子を視聴者自身がホームビデオで撮影した「視聴者提供映像」が保存されています。それは 42 名の方から、約 10 時間分です。テレビカメラでは立ち入れない場所、そしてスマートフォンはもとより、ビデオカメラですらそれほど普及していなかった時代での撮影は大変貴重です。今回の特別番組では映像撮影者を訪ね、震災発生から 7 年後に生まれた佐野晶哉さん（Aぇ! group）が、発生直後に視聴者が撮影した映像をもとに撮影当時の話やその後の 30 年をどう生きてきたのか、その人たちの人生に向き合い、これまでの 30 年を振り返ります。そして若い世代へどう伝えていくべきなのか、震災を語り継ぐことの大切さを届けます。

放送日：2025年1月19日(日) 13:55～15:20 (朝日放送テレビ・テレビ朝日系全国ネット)

出演者：佐野晶哉 (A 炙! group)

ナレーション：上野樹里

制作会社：株式会社エー・ビー・シーリブラ

総合演出：繁澤亮

ディレクター：半田祥基 人見夏輝

アーキビスト：吉水彩

プロデューサー：森崎恵美 (朝日放送テレビ)

春名雄児 木戸崇之 渡辺晃司

【株式会社エー・ビー・シーリブラ 繁澤亮 総合演出のコメント】

「映像提供者の今」を取材してくださった佐野さん。

この立場に対する彼の覚悟が本当に強く、心からこの番組と向き合ってくださったのが印象的でした。

カメラが回っていない時間も、取材でお世話になった方々から震災の話を聞いてらっしゃって、だからこそ取材中、佐野さんに対して出してくださる表情や言葉があったのだと思います。

そして、40名以上の方々が当時提供してくださった10時間におよぶ震災直後の映像がこの番組の見どころでもあるのですが、番組のライブラリーチームがその仕事の範疇をはるかに超えて、映像提供者と連絡を取り、この30年をどう生きてきたかの膨大なリサーチを行い、時には会いに行き信頼関係を築いてくれたからこそ形になった番組です。

素晴らしいタレントさんと素晴らしいチームで作った番組、この様な形で評価していただけたことがとても嬉しく、誇りに思います。

【朝日放送テレビ株式会社 森崎恵美 プロデューサーのコメント】

震災の記憶を語り継ぐことが関西のテレビ局の使命です。震災から30年を超えた今、若い世代にその意識をつなぐ機会を作っていくかなければならないと感じています。番組取材を通じて、震災を知らない世代である佐野晶哉さんやディレクターたちが、震災経験者の方々の声に直接向き合い、思いに寄り添う姿がありました。その「真摯に話を聞く姿」が評価され、大変誇らしいです。

以上

